

「モリイク」は、コープ未来の森づくり基金が、森と人、森づくりと人をつなぐ目的で発行している冊子です。



深い雪の中に佇む牛頭(ごず)の木彫。その生命の息吹に感動したのは、真冬の音威子府の森のほとりでした。砂澤ビッキという彫刻家の木彫は、むせかえるような土のにおい、生命の香りにあふれていて、僕はそこから森の気配を確かに感じ取ることができたのです。

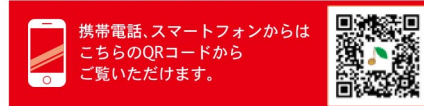
森が持つ機能は、木材資源やCO<sub>2</sub>の吸収、環境浄化、癒しやレクリエーションなどさまざま。その中のひとつに、森からインスピレーションを得る、ということも入るかもしれません。森は、いつの時代でも交響曲のモチーフになったり、絵画の題材になったりしてきました。

私たちはそんな芸術家たちの作品を通して森とつながっている、ということもできるのかもしれない。

森が与えてくれる様々な恵み。そこに色々な方向から光を当ててみると、私たちの森づくりはもっと幅広く、もっと奥深く人の心につながっていくのかもしれない。そんなことを感じさせるお話を、今回はたくさん聞くことができました。

あずもりfacebookページ

<https://www.facebook.com/coop.asumori>



モリイク vol.08  
2014年9月発行  
発行元/ コープ未来の森づくり基金

**FSC C0C0C0** **100** この冊子は環境に配慮してベジタブルオイルインクおよび100%再生紙を使用して作成しています。

コープ未来の森づくり基金レポート

# モリイク

MORI - IKU

森に行こう。  
森で育とう。  
森を、育てよう。

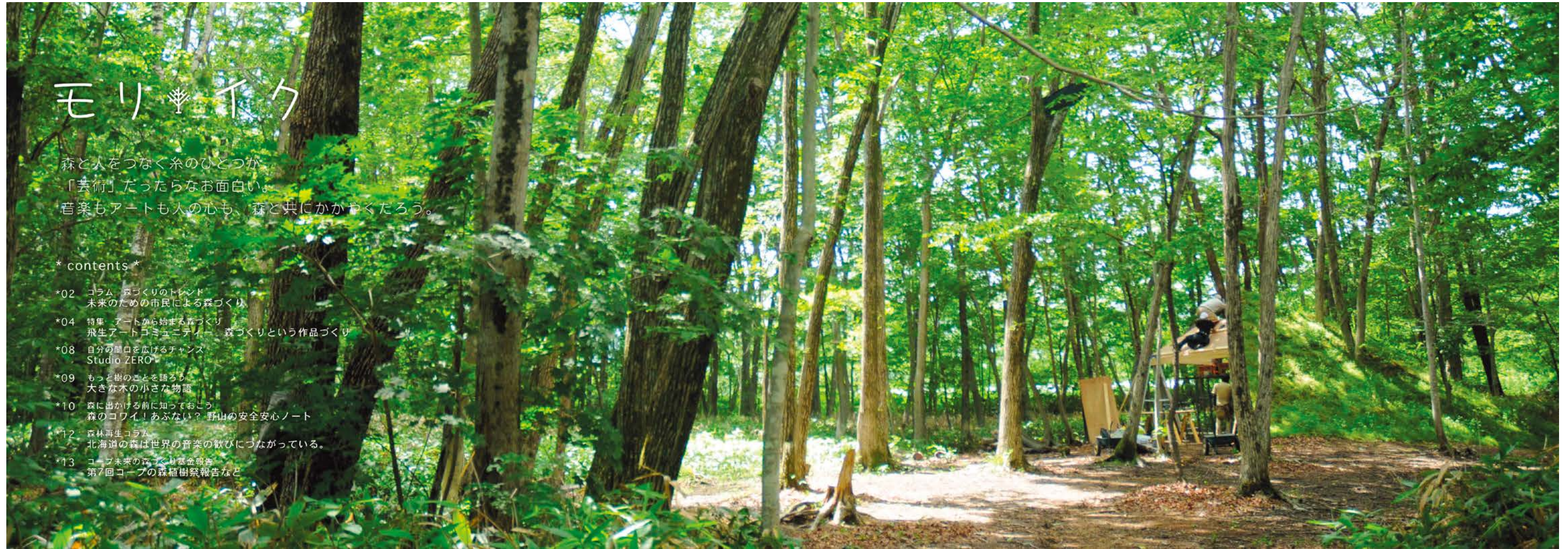
vol.08  
Sep. 2014



森が心をノックする。

アートがつなぐ  
新しい森づくりと人のつながり。





# もりイイク

森と人をつなぐ糸のひとつが  
「芸術」だったらなお面白い。  
音楽もアートも人の心も、森と共にかかやくだろう。

## \* contents \*

- \*02 コラム 森づくりのトレンド  
未来のための市民による森づくり
- \*04 特集 アートから始まる森づくり  
飛生アートコミュニティー、森づくりという作品づくり
- \*08 自分の間口を広げるチャンス  
Studio ZERO
- \*09 もっと樹のことを語ろう  
大きな木の小さな物語
- \*10 森に出かける前に知っておこう  
森のコワイ! あぶない? 野山の安全安心ノート
- \*12 森林再生コラム  
北海道の森は世界の音楽の歓びにつながっている。
- \*13 コープ未来の森づくり基金報告  
第7回コープの森植樹祭報告など

## Starting Column 森づくりのトレンド

### あした 未来のための 市民による 森づくり

日本には里山文化、木の文化  
があるといわれてきました。

かつて、薪・炭、家、生活用具、  
そして肥料など人の生活を支  
える基礎は森の恵みに依存し  
ており、また森を持続的に管理  
する仕組みが社会に組み込ま  
れていました。ただ、そのころ  
はそれが「あたりまえ」のこ  
とであり、「文化」として意識さ  
れることはなかったといえるで  
しょう。自然と付き合い、お互  
いに支えあうのが当たり前で  
あり、それが生活そのものであ  
ったのです。そして、近代化の  
中で、森と人の生活が切れる中  
で、文化が消えていったのです。

そうした中で、森や自然と人  
間との関係を改めて考えよう

としたのは19世紀終わりから  
20世紀初めのアメリカの人々  
でした。ニューイングランドの  
森の中で自給的な生活を送り  
ながら自然と人間の関係を思  
索し「森の生活」を書いたソー  
ジョン・ミュアーなどです。急  
速に物質文化を発展させ、自然  
を開拓していく中で、自然の重  
要性を再認識し、自然と人間の  
関係の再構築を図ろうとした  
のです。こうした考え方は次第  
に世界に広まっていきました。

日本でも、かつて存在してい  
た森と人間のあたりまえの関  
係が消えてしまった現代社会  
の中で、人間と自然の関係はど

うあるべきなのか、人間の自然  
の中の居場所をどう考えるのか、  
改めて考える必要性が広く認  
識されてきました。そうした中  
で、かつての木の文化、里山文  
化を「文化」として再発見し、そ  
れを再生しようとする取り組  
みが各地で行われています。も  
ともと私たちが持っていた森  
との関係を学びなおし、現代に  
生かす中で新しい森との関係  
をつくらうとしているのだと  
思います。北海道でも北海道ら  
しい里山づくりが試みられて  
いますが、もともと里山文化を  
ほとんど持たなかっただけに、  
逆に新しい文化の創造ができ  
る可能性も持っているのでは  
ないかと思っています。

さて、このように森とのかか  
わりを改めて考える中で、森林  
が「美」の対象として見られる  
ようになってきました。ドイツ  
では19世紀に「森林美学」とい  
う学問がつくられ、日本でも  
1918年に北大の教授が森林美  
学という本を刊行しました。実  
は、北大は日本で唯一森林美学  
の講義が行われてきた大学で、  
北海道は日本の森林美学の発  
祥の地なのです。

「日本三大美林」といった言  
葉を聞いたことがあるかと思  
いますが、誰もが認める美しさ  
を持った森林があります。「美  
林の陰に人あり」という言葉が  
あるようですが(日本の美林、  
井原俊一著)、人が関わり、まも

り続けることでこうした美林  
が私たちの前にあるのです。景  
観・風景としての森林の価値を  
認め、景観の重要な要素とし  
て森林を守り、管理することも行  
われてきており、阿寒湖畔に広  
がる前田一歩園財団の森林で  
は美しい景観を後世に残すこ  
とを大きな目標の一つとして  
森林管理に取り組んできてい  
ます。

一方、森林は美を創造する場  
所としても位置づけられてき  
ています。北海道でも、2011・  
2013年秋には春香山のふもと  
にある彫刻家本郷新のアトリ  
工跡地の山・森を舞台にして、  
多数の作家が参加して「ハルカ  
ヤマ芸術要塞」という野外展を  
行い、私も秋の一日を楽しんで

きました。実行委員会ではこの  
企画を「作品を介した自然との  
共生や人間復興を再考する場」  
と位置付けていました。私も、  
人と森・自然との関係づくりを  
考える新しい視点をもらった  
ように思います。

私は社会・人間と森林とのよ  
りよい関係をつくっていくこ  
とが重要ということを何度か  
このコラムに書きました。森に  
関わる文化・アートも、人と森  
の関係づくりの中にあり、新し  
い関係づくりの可能性を広げ  
てくれると思います。✦



柿澤 宏昭  
(かきざわ ひろあき)

北海道大学  
森林政策研究室 教授

コープ未来の森づくり基金 運営委員長

1959年神奈川県横浜市生まれ。北  
海道大学大学院農学研究所修士課  
程修了。現在、北海道大学農学部森  
林政策研究室教授。

持続的な森林管理を多様な人々の  
協働で支えるしくみづくりをテー  
マに研究を行っている。また、欧米、  
ロシアなどの森林管理政策にも詳  
しい。主な著作に『エコシステムマ  
ネジメント』(築地書館)。2008年よ  
り「コープ未来の森づくり基金」運  
営委員長を務める。





くぐり抜ければ、広がっているのはいつもと違う森。  
出会いとコミュニティがあって、それはひとつの作品の森づくり。

## とびう 飛生アートコミュニティー

白老町のはずれ、山に向かって  
ずいぶん奥に走った所に現  
れる小さな木造の古い校舎。

廃校となった飛生小学校の  
校舎の利活用を白老町が主体  
となって考えたとき、アーティ  
ストの制作の場にしてみらおう、  
という案が出ました。それが実  
現したのが「飛生アートコミュニ  
ティー」のはじまり。1986年  
のことです。

以来、そこに住んで制作をし  
たり、通いながら制作をしたり、  
作品を置いたり…さまざまな  
人がさまざまな形で作品制作  
の場として利用してきました。  
今では13名のメンバーが参加し、  
そのうち数名が実際に飛生に  
暮らしています。

それまでは、アトリエとして  
作品が生み出される場という  
役割がメインだったこのコミュニ  
ティ。広い作業場で心おき  
なく制作ができるという利点

しか見えていなかったのが、地  
域の人や、多くの人たちに関わ  
る中でひとつの「思い」に出会  
いました。それは、学校という  
場所が地域にとっては大切な  
場所だという「思い」。廃校にな  
ったとはいえ、その学舎に関わ  
った地域の人たちの思い出は  
未だに深く心に残り、忘れがた  
いのです。

「学校」という場所は、今でも  
自分たちだけのものじゃない。  
だから、この校舎にまた子ども  
たちをはじめとして多くの人  
たちが集い、交流する場にしてい  
きたい。そうしてこの場を多く  
の人のために芸術祭やワー  
クショップ、美術教室、そして  
森づくりなどの活動を通して  
解放するようになりました。

こうした、校舎に人を呼び戻  
す活動の中で、もっと多くの人  
にこの場を楽しんでほしいと、  
音楽祭も行うようになりました。

その舞台として、学校の裏に広  
がる森を利用できないか。とい  
う構想が生まれて、調べてみれば  
かつては学校林として子ども  
たちの学びの場だったとい  
うことが分かりました。

飛生小学校は愛鳥モデル校  
でもあったといえます。子ども  
たちは鳥に親しみ、森には巣箱  
をかけ、鳴き声だけでもその種  
類を判別したのだとか。

廃校となって以降、荒れ果て  
て笹に覆われた森の森づくりは、  
そんな背景を背負って始まり  
ました。そして今では歩き心地  
の良いチップが敷かれた道が  
通り、みんなが集う森の家や、  
語り合うたき火場、ステージが  
整備された気持ちの良い場所  
に生まれ変わっています。

アートの場から始まった森  
づくり。何を目指して、そして  
何が生まれたのかを聞きました。

飛生アートコミュニティー ☎059-0642 白老郡白老町字竹浦520 🌐http://www.tobiu.com



光が入り、気持ちの良い森と、森に点在する作品群は、飛生の森づくりプロジェクトが作っている「ひとつの作品」(I)。そこには老若男女が関わり(II)、寝食を共にして笑い合う家族のような人のつながりが生まれた(III)。ゆくゆく、地域の人や子どもたちが再び集える場所に行きたい(IV)と、代表の国松 希根太(きねた)さん(V)。 Photo: Naoki Takahari (III)



「森に人の居場所をつくる。  
森と人が一体になる」

森づくりと芸術というジャンルは、ちょっとかけ離れたイメージを持つ人が多いのではないのでしょうか。

昨今、森に芸術作品を置いて、鑑賞してもらおうといった展示は日本各地に見られます。でも、それが「森づくり」かと問われると、あまりすっきり納まらないのです。

「森に作品が置いてあるアートの森、ではなくて、森に人がいる場所をつくる。森と人が一体になって、それが一つのみんなで作る作品。そんな森づくりをしています」と語るのは、飛生アートコミュニティーの代表を務める国松さん。その森づくりは、ほかのアートの森とどう違うのでしょうか。

飛生の森づくりの端緒は、飛生の校舎が再びたくさんの人で賑わうこと、その活動のひとつである、音楽と芸術のフェスティバル、「トビウキャンプ」の会場として、校舎の裏に広がる森を使えないか、という構想があったから。最初の年には

森を歩ける道を通し、そこから、じゃあどんな森にしていこうかと森づくりのメンバーのみんなで話し合いを重ねたといいます。森と人が一体になるというコンセプトは、その話し合いから生まれてきました。だから、国松さんの口からは、何度でも「みんなで作っている」という言葉が出てくるのです。

「家族みたい。  
そういう結束力がいい」

最初は「どういうデザインの森にしようかとか、アートの・デザイン的な考え方をしていた」という国松さん、次第に「笹はいつ刈れば効果的か、とか、飛生はシイタケを育てるのに良い気候だからやってみよう、とか、考えていなかった発見がいっぱいあった」と、森づくりの面白さに気づいていきます。

そしてさらに、「森づくりでは、ただ作業して帰るのではなく、その後にみんな温泉に行ってバーベキューを囲んで語り合っている。そして翌日もまた作業をする、というリズムでやっています。

飛生の森づくりプロジェクト、  
それは、時空をつなぎ、人をつなぐ  
アート制作でもある。  
そしてそんな森づくりがあってもいい。

飛生アートコミュニティーの森づくり

# 森づくりという作品づくり

Photo: Minako Sato

だから、みんなが共同生活をしているみたいになって、毎回同じメンバーではないのだけど、家族みたい」。年代も、若者から自分の親くらいの世代までが色々な作業や話を一緒にする、世代間の交流も大きい。そしてそんな結束力が良い。

もうひとつは、みんながそれぞれ得意なことを持っている。例えば森にすごく詳しくあったり、電気関係が得意だったり。森づくり以外でも、料理が好きだったり。みんながそれぞれの役割を持って関わられる、居場所がある、ということも、飛生の森づくりの大きな魅力なんだろうと言います。

飛生の森づくりで語られる「みんなが作っているもの」。それは、人が再び集う地域のシンボルとしての学校の森であり、人と人が語り、お互いを必要とする絆のある居場所なのかもしれません。

森づくりが家族のような、思いやりと優しさの人のつながりを作り出しているのだとしたら、それは今の日本が切実に必要としていることのようにも思えるのです。

「もう一度この森を  
みんなが集まる場に」

飛生の森づくりの特長は、やっぱりアートであること。「みんなで作る」ひとつのアート作品。そこには飛生という土地がつかないできたストーリーが息づいています。

「例えば飛生はアイヌ語でトップ・ウシ(ネマガリダケの多い所)という意味があります。だから、地元のネマガリダケを材料に作品を作る人がいたり、もうひとつの飛生の意味として、黒い鳥の多い所という説もあって、その物語をモチーフにした作品があったりします」という、土地の持つストーリーであったり、「かつての飛生小学校の子どもたちは鳥のことをよく学んでいました。だから鳥の巣箱の作品を制作したアーティストもいます」と、かつての子どもたちが持っていたストーリーをくみ取った作品があったりします。

国松さんは、過去から今につながる物語を大切に表現し、そして未来へとつなげるように、「これからはそうしたスト

ーリーを背景にしながら、ワークショップやアートフェア、食事会なんかをやって、もう一度この森を、いろんな人が集まる場所にしたいんです」と話してくれました。

「その土地や人ならではの  
独特な森づくりがあったらいい」

長い時間と、様々な人が紡いだストーリー。それはどこの土地にもあって、どの土地も違うもの。そこから見出される価値は、もちろん一つではありません。

飛生では、アートを出発点にしながら人と人の深く豊かなつながりを生み出し、その土地に根付くストーリーを掘り起こして表現しています。

森づくりがひとつの「作品づくり」だと考えたとき、その作品がどんな姿をしているのかを想像すると、もっとユニークで、もっと面白いアプローチが存在するのかもしれない。その豊かさが、北海道の森づくりをもっと面白くするポイントになるのかもしれない。飛生の森づくりは、そんなことを思わせてくれました。✦

info.

飛生芸術祭2014 僕らは同じ夢を見るー

EXHIBITION 9.7SUN-12FRI 10:00-16:00

見る／歩く／感じる  
<http://fes.tobiu.com/2014/>

EVENT 9.13 SAT 13:00-14 SUN 14:00 [TOBIU CAMP]

遊ぶ／学ぶ／歌う／踊る／飲む／食べる／寝る  
<http://tobiucamp.com>

TOBIU ART EXHIBITION「飛生でみつめる景色」/  
飛生の森作品展／出張！美術教室いんどり報告展

飛生の森びらきツアー [9/7]  
第二回 廃校・旧校舎アートフォーラム [9/7]  
TOBIU CAMP [9/13-14]

飛生芸術祭は、飛生アートコミュニティーの様々な表現をお披露目し、たくさんの方々と出会い、交流する年に一度の催しです。6回目となる今年も、8日間にわたって木造校舎と周囲の森を会場とした作品展示やイベントを行います。この機会にぜひ訪れてみてください。



植える→育てる→使うことで保たれる森林。  
木を使うことも、森を守ることに繋がっている。

### 木づかい Column

Column  
植樹の図鑑 知っておこう。私たちが植える木にも  
物語がある。

# 大きな木の 小さな物語

## ③ ハウチワカエデ

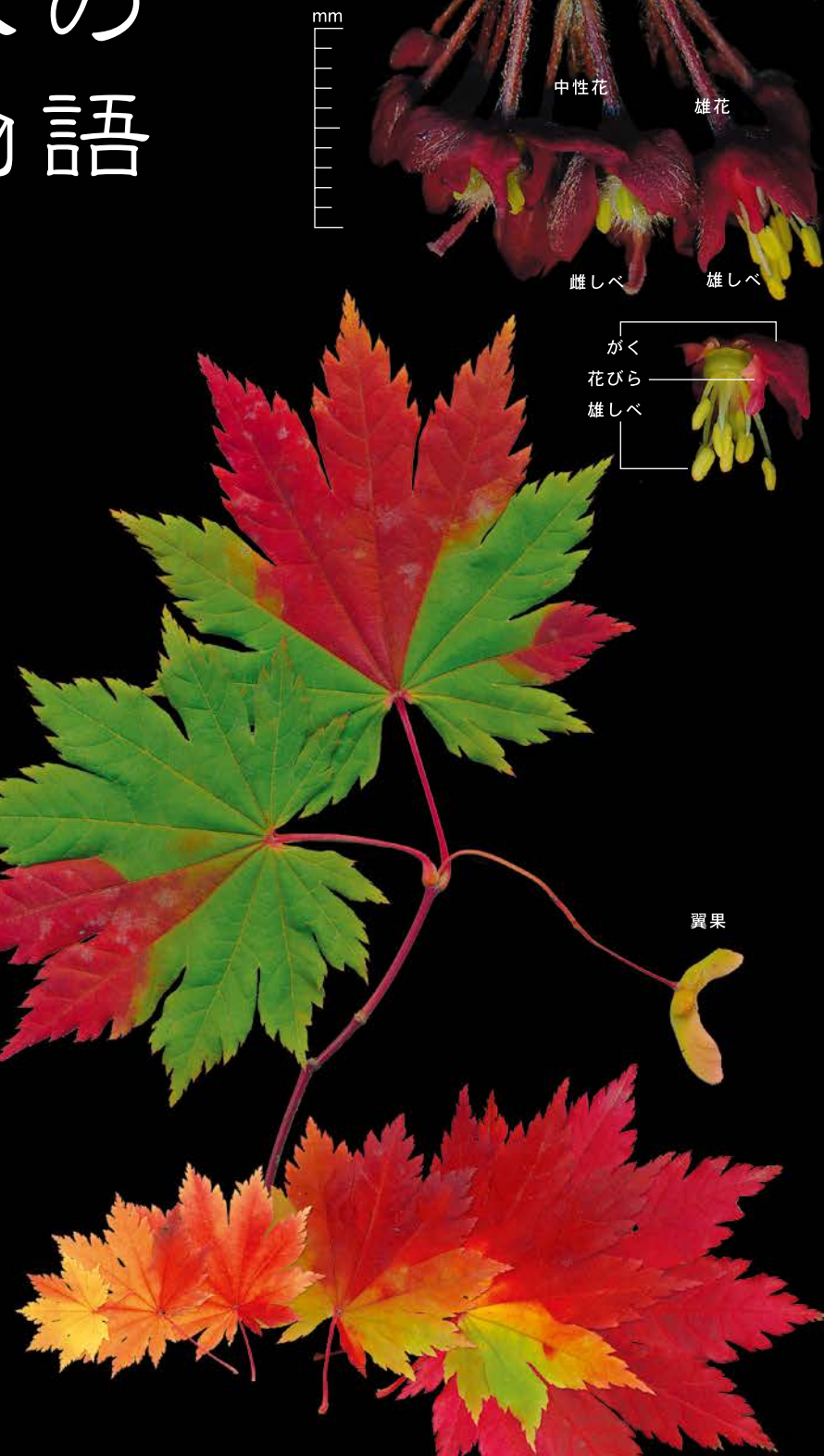
ハウチワカエデ、私も含め森林系の人たちはこう呼びますが、造園系の人たちはメイゲツカエデという名を使います。「ハウチワ」は天狗が使うとされた「羽団扇(は・うちわ)」、つまり羽でつくったウチワに似たカエデという意味。一方メイゲツカエデは「名月カエデ」で、秋の名月の光で落葉する紅葉も見られるという意味でついた、ということです。風情を感じます。英名は「フルムーン・メープル(fullmoon maple)」、このまま訳したようです。

ハウチワカエデはカエデ科カエデ属の高木で12mほどまで大きくなります。近年DNAによる分類系統解析が進み、これまでとは分類が大きく変わっています。APG体系という分類体系です。カエデ科という名前はなくなり、トチノキ科と一緒にムクロジ科という群に統一されています。いずれ市販の図鑑も変わっていくでしょう。ちょっと馴染めませんが…。

札幌付近では5月の連休過ぎから花を咲かせます。深紅に見えるのはガク、花びらは内側にそれより薄い紅色でひっそりと咲いています。数個が房状に咲きますが、その中には雄花と両性花が混じっています。ただ、両性花といっても雌しべが大きく、小さな雄しべは花粉を出しません。雌花といってもよいですね。

みなさんご存じのように秋には紅葉します。紅葉には葉に含まれる3つの色素、クロロフィル(緑)・カロチノイド(黄)・アントシアニン(赤)が関係しています。クロロフィルとカロチノイドはもともと葉に含まれていて、寒くなるとクロロフィルが減りカロチノイドが目立つようになります。一方、秋には葉から養分を送る回路が閉ざされ、葉に残った糖分からアントシアニンがつくれ赤が目立つようになります。この3つの色素の量や混ぜ具合で薄い黄色から深紅までさまざまな変化を見せてくれます。これら色素の関係は、気温の変化の仕方や光の当たり具合、空気中の湿度などに左右されます。

さて、今年の猛暑、紅葉にどんな影響を与えるのでしょうか。「錦秋」になればいいですね。✿



text/images 孫田 敏

‘54年山形県長井市生まれ。’77年北大農学部林学科卒業。林業、その後造園・緑化工事に従事。’90年から建設コンサルタント。緑化計画が専門。技術士(建設部門・建設環境)。’00年から北の里山の会代表。著書:アトリウムと植生(積雪寒冷地型アトリウムの計画と設計:絵内正道編著)、水辺林復元計画の基本的考え方と計画の進め方(水辺域管理—その理論・技術と実践—:砂防学会編)、森林管理と市民参加(北のランドスケープ 保全と創造:浅川昭一郎編著) WEBサイト「Scan Botanica」 <http://scanbotanica00.sblo.jp>



参考文献 牧野富太郎,1961,牧野新日本植物図鑑,1060pp,北隆館  
辻井達一,1995,日本の樹木 都市化社会の生態誌,296pp,中公新書,中央公論社  
大場秀章編著,2009,植物分類表,511pp,アポック社

浅井達弘,2000,ハウチワカエデの雌雄異熟性,北海道林業試験場研究報告,37,27-40  
松下まり子,1994,紅葉と落葉,週刊 朝日百科植物の世界29,3-158~3-160,朝日新聞社

## Studio ZERO

一歩踏み入れる世界が  
自分の間口を広げる。  
みんなの近くに  
そんな森があるよ。

もともとは狩猟用のデコイ(模型)から始まったのがバードカービング。簡単な鳥の形を作っておびき寄せていたんです。でも商業的な狩猟が禁止になってから、デコイ作家が個性的でリアルな工芸品として作るようになったといわれています。

私はもともと鳥が好きでバードウォッチングをしていたのですが、バードカービングの本や、催しでの実演を見て私も作ってみたいと思うようになったんです。

今と違って資料が少なく、図鑑や写真集も限られていて苦労しました。実際に鳥を見たり、調査に参加したり、博物館に剥製を見せてもらって、翼の長さや爪の長さを計測してそこから設計図を起こして、そうして作っていました。そのころ、北海道でも自然に目を向けた時期で、各地にビジターセンターなどの施設も多く建てられていたので、そこからの制作依頼が多くありました。当時は、今もですが、剥製を展示する施設が多かった。でも剥製では鳥の親子のような情景を作ると痛々しくなってしまうこともあって、剥製では表現できない、人の感情に添ったものが作れるのもバードカービングの魅力かな。私自身は、いつも鳥を作る時に、生きている感じの柔らかさや温かさを生み出していきたいと思っています。木には木の質感や柔らかさや温度があって、その中に「鳥」というエネルギーを持ったものを作り出していき、ごっこつしたものが鳥という生き物に変わっていく、木という質感が鳥という生き物に変わる瞬間がとっても面白いですね。

今はディスプレイの中で木の板を使ったり、木の枝を金属で作ったりもします。例えばコクワの蔓の曲線を金属で作って、埋もれ木の板の木目や朽ちた風合いを活かして合わせたりする※。そういう面白さも、他の工芸作家と関わるようになってから知りました。

自然の中の鳥、きれいなんですよ。胸から首にかけての色合いとか背中の色やシルエットとか。野外で見るとやっぱり「ああ、きれいだな」って思っ。それを表現するのはとても難しいんですけど、こんな鳥がいるんだ、と分かるきっかけにバードカービングがなってくれたらいいな、と思っています。

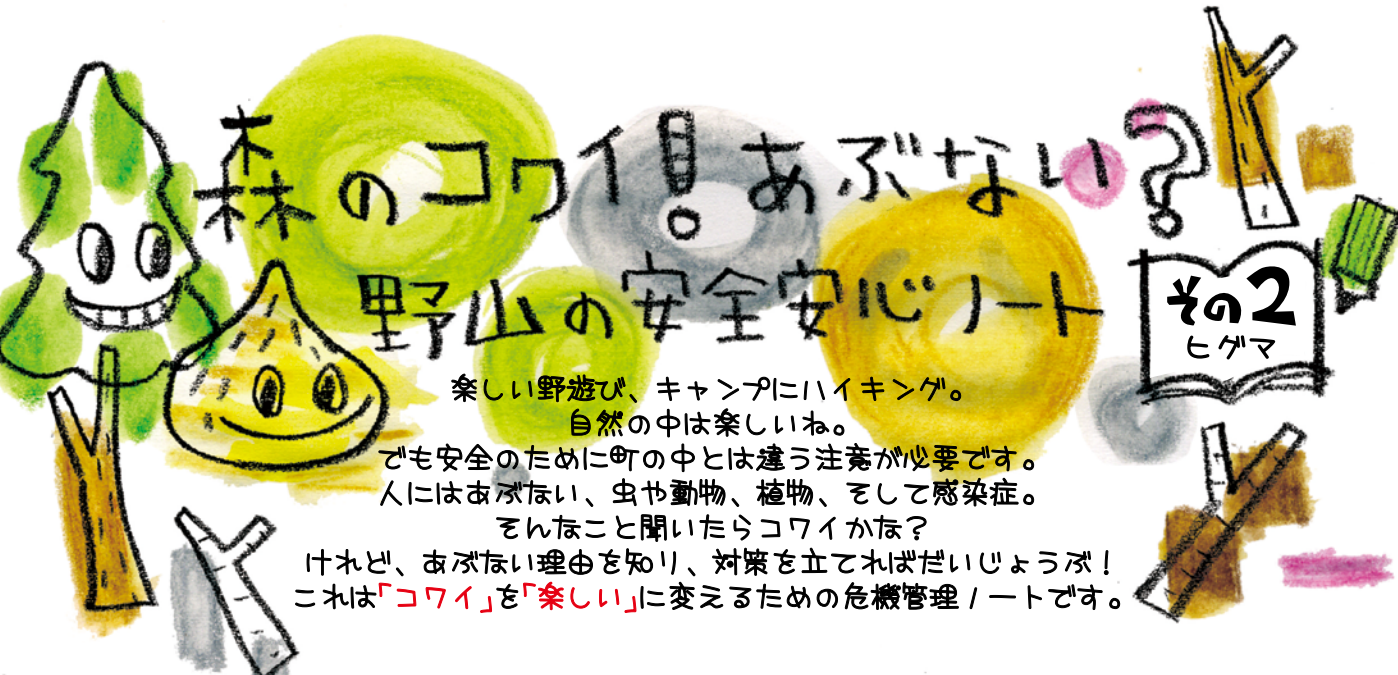
今の森のそばの仕事場に来て20年になりますけど、森が近くにあると心にゆとりができる。山鳴りだったり、雪がしんと降りる感じだったり、春の朝早くに鳥が賑やかだったり、季節の移ろいがよく感じられます。自然が身近にあって、特にこういう仕事をしているとありがたいですね。それから、一歩足を踏み入れると別の気持ちの良い空間があって、ちょっとした虫がこんなにきれいだったり、ちょっとした花を調べたら珍しいランの仲間だったり、見れば見るほど、知れば知るほど面白くなって気づいたんです。意識しないと分からないけど、気づけば自分の間口が広がっている。そういう入口として森や自然はすごくいい。北海道にはそういう自然が身近にあります。そこに気づいてほしいし、贅沢にある自然をうまく楽しんでほしいな。✿



STUDIO ZERO  
バードカーバー  
北尾 久美子さん  
北海道を代表するバードカーバー。道内のネイチャーセンター・ビジターセンターの展示を多く手がけた。現在は工芸作家としても高い評価を受ける。北海道出身。

※写真の作品。コクワの蔓は金属で、背景の板は埋もれ木で作られている。  
ハシトガラ(左)とヒガラ(右)の生きているような表情が愛らしい。



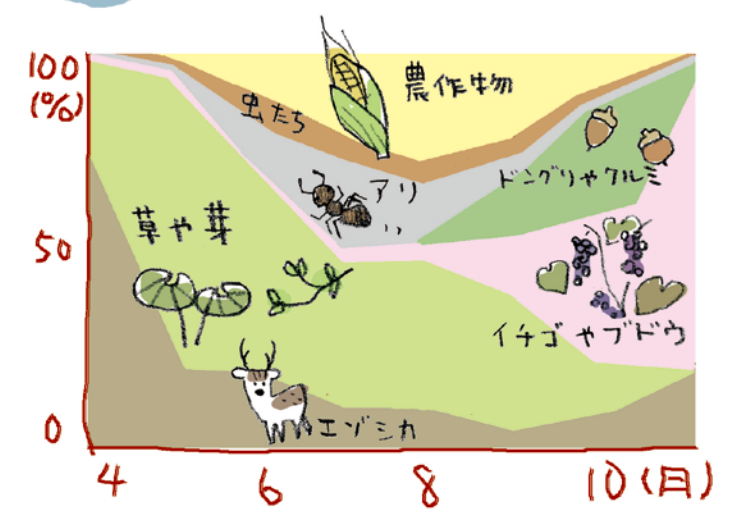


楽しい野遊び、キャンプにハイキング。  
自然の中は楽しいね。  
でも安全のために町の中とは違う注意が必要です。  
人にはあぶない、虫や動物、植物、そして感染症。  
そんなこと聞いたらクワイかな?  
けれど、あぶない理由を知り、対策を立てればだいじょうぶ!  
これは「クワイ」を「楽しい」に変えるための危機管理ノートです。

北海道の動物といえばヒグマ。  
キャラクターとしてはカワイイけれど、出会えばクワイ!  
みんなもヒグマのことをきちんと知って  
「アブナイ行動」を減らしましょう。

森林のおとなりさん、  
ヒグマを知って安全に。

ヒグマは何を食べているの?



ナニ? 猛獣だから肉食かな? いいえ、主食は植物の芽や根、実。食べ物のほとんどがフキやどんぐり、野イチゴなどの植物です。ナニが上がる川にすむ幸せなヒグマは少なく、死んだシカを食べることもあふけれど、牛や人間をエサにすることはまずありません。ヒグマのするどいツメは草の根を掘るのに便利で、どんぐりをかみつぶす奥歯も発達しています。だから北海道のヒグマは、「ベジタリアンになった肉食動物」と呼ぶでしょう。絶滅した肉食のオオカミやカワウソと違い、時代に応じてメニューを変えられる雑食の生き方と冬眠の習性がヒグマを守っているのかもしれない。最近では農作物を荒らすヒグマが増えていきます。農家の人が困るし、人里に近づくととっても危険。荒らさせない工夫が大切です。



なぜ事故が起きるの?

ヒグマと人の事故を調べると「食う」ために襲うより「山菜採りや釣りの人と出くわした」か「追ってきたハンターへの反撃」がほとんど。出会い頭がキケン! だから「山で出くわさない」ことが何より大事!



ヒグマに出くわさないために



ヒグマは音を聞き、匂いを嗅ぐことが得意! でも視力はあまり良くありません。ヒグマがすむ森に入るときは鈴などで音を立ててこちらの存在を知らせましょう。またはヤブへ入る前に「おーい! 入るよ」と叫び、IP>IP>と拍手して。出没情報やヒグマが通った跡にも気をつけましょう。土に残る足跡、フキを食べた跡、林道のフ>。よく観察すると、新しいか、古いかもわかりますよ。



ヒグマを近づけないために



●生息地の近くでは...  
キャンプなど外遊びのときに食べ残しを捨てたり、釣った魚をテントの近くに置くのは危険。人里やキャンプ場では、生ゴミをしっかりと始末しましょう。



●住宅街に出てくるヒグマも  
近ごろ、街に近い森にヒグマが増えてきました。街に迷い込んだヒグマの近くで大声を出したり、ペットの犬がほえるると興奮してキケンです。近くで目撃情報があるときは草むらや林に近づかず、生ゴミを出さないようにしましょう。

●ヒグマはおまえる!

最近、ハンターが銃を撃つと近づいてくるヒグマがいます。なぜかな? 自分が狙われるキケンよりも「ハンターの近くにはシカの残骸がある!」と学習したのでしょう。彼らがエサだと思ふゴミの始末に気をつけなくちゃいけない理由もわかりますよね。「人間に近づくとおいしいことがあるぞ」とヒグマに思わせないことが大切です。



もしも出あったら.....



前①取り上げたヌズメバネとヒグマ、似ている気がします。どちらも承だんは人間を敵やエサだとは思っていません。突然出くわし、人間が不用意な行動をとると攻撃的になるのです。ヒグマは「おきを見て襲いかかる恐怖の猛獣」ではなく、「危険性を秘めた森の隣人」だと思います。北海道というこの島で、ヒトとヒグマがともに生きていけるよう、ほどほどの距離を保つ「つき合い方」を考えませんか。



クワくても走って逃げたり、大声を出すことは絶対ダメ。ヒグマが興奮して攻撃的になりますよ。ヒグマまでの距離があれば、様子を見ながらゆっくりはなれて。また、近くの人たちと手をつなぎましょう。集まった人々は襲いづらく、ばらばらに逃げた人の方が被害にしやすいのです。近づいて来てしまったとき、クマ撃退スプレーを直接ヒグマに浴びせたり、十タでたたかったり、首筋を守りながら伏せて助かった人もいますが、とてもキケンです。あわない、近づかせないのが一番です。

morinoko

新岡薫/エトブン社  
北海道のイキモノをテーマに絵と文を描いているイラストレーター。トカゲと鳥とエゾシカが気になる。猫とキツネを見たら追いかける。クモはちょっとクワイ。好きなことは森と動物園と水族館の散歩。札幌出身。ブログ <http://etobunshamneyzo.blogspot.com/>

宮本尚/きたネット  
森好き、ヘンなイキモノ好きは、オホーツク海を眺めて育った子どもの頃から。最近ではキノコのトリコです。北海道の森の歌を作りたいと思いつつ、なかなか時間がとれないのが悩みのタネ。今年こそ! 森つくりナビ★北海道 <http://kitanet-mori.com>



2004年9月8日、北海道に大型の台風が上陸しました。経験したことのない強風で、札幌でも公園の樹々がバタバタと倒れました。北海道大学のシンボルであるポプラ並木も壊滅的な被害を受けました。この思い出のポプラを再生したい、工芸品として残したいという北大関係者、市民の願いから、ひとつの楽器が誕生しました。チェンバロという楽器です。チェンバロは、グランドピアノに似たフォルムをもつ美しい鍵盤楽器で、小さな爪が弦をはじいて繊細で密やかな音色を奏でます。

ポプラは埼玉県の横田ハーブシコード工房で、2年の歳月をかけて美しい楽器になりました。ボディはすべてポプラ、脚の部分にはやはり台風で倒れた北大のハルニレが使われました。工房のホームページには制作過程とともに、制作者である横田誠三さんの「日本では普段は粗末に扱われているポプラ材が、大事に扱うことによって決して劣悪な材ではないことを判ってもらい、その価値があらためて見直されていく端緒となることを同時に望んでいます」というメッセージも掲載されています。完成したチェンバロは、良く鳴り、健やかな美しい音を奏で、2006年には北大クラーク会館や札幌コンサートホール「Kitara」で、完成記念コンサートが開催されました。

明楽みゆきさんというチェンバロ奏者の方がいます。明楽さんから「私のチェンバロも道産材で作られているのよ」というお話を聞いたとき、北海道の自然を愛する方なので、「北海道の樹を使って！」と特注したのかと思っていました。しかし、そうではありませんでした。世界的

なチェンバロ制作者「久保田彰チェンバロ工房」が選びぬいて採用していた材が道産材だったのです。明楽さんのチェンバロのボディは道産材の「カツラ」、脚は道産材の「ナラ」だそうです。「非常に繊細で美しい音、自慢の楽器です」と明楽さん。コンサートでは必ずチェンバロが北海道の樹からできていることを話して、その魅力を伝えているそうです。

## 北海道の森は、世界の音楽のつなびになっている。

さて、話は「Kitara」に移ります。音響の良さは「世界最高レベル」という評価を受けている札幌が誇るコンサートホール、ここにも北海道の樹が使われています。ホールに入ると木の壁の美しさに目を奪われます。道産のカバの材が使われているのです。カバは、澄んだなめらかなでやわらかい音響素材として定評があるそうです。色合いも木目も美しく明る

くやわらかいイメージにもひと役買っています。

他の楽器にも北海道の樹が使われているのでしょうか？ 実は、北海道には日本一のピアノの部品メーカーがあります。ピアノの響盤（共鳴板）の国内約70%、世界でも約16%のシェアを占めるのが、遠軽町丸瀬布の「北見木材株式会社」です。世界の高級ピアノのほとんどがルーマニア産のスプルスという松を使っていますが、これに匹敵するのが、北海道産のアカエゾマツ。伸びと広がりのある素晴らしい音質・音色で定評があります。「北見木材」はこのアカエゾマツの響板づくりの第一人者として知られています。

道産のアカエゾマツは、他にも、鍵盤板、音響棒、駒、支柱、ギターの響板（ボディ）にも使われています。しかし、昔は樹齢200年を超えるアカエゾマツがたくさんあって、そこから伐り出した材で作っていたそうですが、残念なことに今は8割以上が輸入材だそうです。

さて、アカエゾマツはどんな樹かという、札幌駅南口の植栽、札幌パークホテルの前庭の松並木はアカエゾマツです。冬にはイルミネーションで彩られキラキラと輝き、雪をかぶった姿がとても美しい、まさに北海道の樹です。

私たちの身近な樹が、世界中で素敵な音楽を奏で、音楽ファンの喜びの源になっていることを知ると、さらに北海道の森が素敵に思えてきませんか。音楽好きの私は「コープの森」の植樹でも、未来の歓びのためにアカエゾマツをたくさん植えてほしいな、と思っています。✿

みやもと なお  
宮本 尚  
認定NPO法人北海道市民環境ネットワーク  
「きたネット」常務理事



オホーツク出身、東京での生活を経て、札幌市在住。コピーライター、心身障害児(者)の介護・マネージメントなどを経て、現在はきたネット理事のほか、「北海道エネルギーチェンジ100ネットワーク」代表、シンガー・ソング・ライター。

Report



# あした コープ未来の森づくり基金 植樹活動

今年で7年目となったコープの森づくり！  
参加者がデザインする「Fの森」をはじめ、  
全道で森づくりが広がっています。  
未来のために、大きく育て北海道の森づくり！



## 今年もたくさん 植えています！

雪解けの山を見上げながら、今年も全道で植樹シーズンが開幕！ 2012年からは道内11カ所となった「コープの森」で、今年行われた植樹では、延べ2.32haの土地に4490本が植えられました。参加してくれたのは940名の皆さん。少しずつ、一歩ずつ、未来の北海道の森が育っています。

そんな中、当別町の道民の森神居尻地区で行われた「第7回コープの森植樹祭」。過去最高となる305名の方が参加してくれました。神居尻地区の植樹地は、ワークショップで1年をかけて植樹のデザインを考え、アイデアを積み立ててきた場所。今回は本

来の植生を踏まえて選んだ22種類、1000本の苗木を、やはり自然の森を意識して、ランダムに植えました。1本ずつ大切に、大きくなれ、と願いを込めて植樹した参加者の中からは「将来どんな森になるのか楽しみ」という感想が聞かれました。

午後からは、子どもたちはネイチャーゲーム、大人は森林のガイドウォークに参加して自然に親しむ時間を持ちました。道民の森を歩いて花や木を観察しながら、自分たちがつくる森がこんな風に育つのかな、とイメージした人もいるかもしれませんね。

「Fの森」では引き続き森づくりサポーターの皆さんによる育樹や、来年度の植樹のデザイン考えるワークショップなどが行われます。もう一歩進んだ森づくりにも、ぜひご参加ください。



2014年  
コープの森  
植樹実績一覧

実施地	実施日	植樹木・本数
道民の森	6月7日	22種 1000本
美幌町	6月21日	トドマツ 400本
白糠町	5月31日	トドマツ 400本
上士幌町	6月15日	トドマツ 200本
東川町	6月7日	イタヤカエデ、ナナカマド 400本
むかわ町	5月17日	トドマツ 480本
豊浦町	5月31日	トドマツ 400本
知内町	5月18日	ミズナラなど4種 280本
喜茂別町	6月14日	ホオノキ 300本
栗山町	5月17日	トドマツ 480本
真狩村	5月24日	カラマツ 150本



SPECIAL!!

協賛企業に聞いてみた。  
応援しています  
コープの森づくり

#6

エステ株式会社/日本かおり研究所

http://www.st-c.co.jp http://www.kaoriken.com

「森は何かをしてくれる」「森ってすごい」  
そういう思いが最初あって、森による空  
気の浄化作用の研究をはじめたんです。色  
んな木を調べましたが、独立行政法人森林  
総合研究所の研究ではトドマツの空気の  
浄化作用が群を抜いていることが分かり  
ました。具体的には、窒素酸化物(NOx)の  
浄化能力と抗酸化作用の高さが明らかにな  
ったんです。私たちは、この森の力を、香  
りだけの癒しではなく「効果のあるもの」  
として、排気ガスなどの窒素酸化物が多い  
都市部や遠くは海外まで視野に入れて届  
けたいと考えました。誰もが森の恵みを受  
けられる、安全・安心に豊かな生活ができる。  
それを実現させるために、トドマツの精油  
と精水を使った商品で「クリアフォレスト」  
のブランドで開発しています。

トドマツは、釧路の株式会社北都と連携  
し、国有林や道有林などから出る間伐材の  
うち、施業地に放置されてしまう枝葉を回  
収して原料としています。これを抽出施設  
に集積し、ほどよく水分を飛ばして、独自  
に開発したマイクロ波を使った蒸留装置  
で効率的に精製水と精油を分離します。ち  
なみに、工場はゼロエミッション。抽出後

のトドマツの枝や葉は燃料として近くの  
工場などで再利用されています。また、伐  
採の後に植樹される循環型林業の間伐材  
を使うので、資源が枯渇することがない、  
というもポイントです。

この事業は、林業会社や行政、研究機関、  
コープさっぽろなどとネットワークして  
行うことで、全体的に経済としてまわって  
いくという仕組みづくりでもあります。森  
林を、木材だけでなく様々な形で利用する  
(カスケード利用)ことで、それぞれの歯車  
が回ると考えています。

カスケード利用のひとつとして展開を  
進めているのが、「クリアフォレストの森」。  
森林セラピー基地に認定された「山崎山林」  
との連携事業で、クリアフォレストの原点  
がここにあるんです。子どもたちに、木は  
伐るだけではなく、空気をきれいにする機  
能もある。「森ってすごいぞ」ということを、  
この森から伝えていきたいと思っています。

こうした背景を消費者の皆様に伝わる  
ような商品を作って、ヒットさせることで  
北海道の林業や森林が見直され、木材だけ  
でない森林資源が注目されてみんなが森  
の恩恵を受けることが目標ですね。\*



独自開発の精製装置(上)と抽出した精油(下)。  
事業化を前提に効率的なシステムを開発。



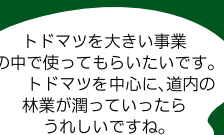
癒しの景観は「クリアフォレストの森」。気持ちの  
良い森林散策を体験できます。



日本かおり研究所 代表取締役社長  
金子 俊彦さん



株式会社北都 代表取締役  
山崎 正明さん



釧路総合振興局 林務課長  
大澤 英二さん

トドマツを大きい事業  
の中で使ってもらいたいです。  
トドマツを中心に、道内の  
林業が潤っていったら  
うれしいですね。

森の未利用資源の活用を  
釧路から発信、ということで、  
行政としても注目しています。  
地域との橋渡しなどで  
サポートしていきたい  
と考えています。

Report

コープ未来の森づくり基金  
2013年度  
活動報告・会計報告

コープ未来の森づくり基金は、  
皆さまからの支援や協力によって  
活動を続けています。

全道11カ所の「コープの森」で行われ  
た植樹は、今年度は4490本に上りました。  
森づくりに取り組むボランティア「あ  
ずもりサポーター」も721名と、森づく  
り活動は大きくふくらんでいます。

また、助成事業でも高額助成を3団体  
に、小額を20団体に助成金を支援しま  
した。さらに、北海道ぎょれんの魚付林  
植樹活動にも助成し、北海道の森づく  
りの広がりに貢献しています。

そのほかにも、第4回を迎えた北海道  
の森づくり交流会では過去最高の参加  
者が交流や情報交換を深め、また、調査

研究活動としてとちの森づくりと  
道産材の活用を学ぶ視察を行いま  
した。

2013年度の会計報告では、レジ  
袋辞退の積立金2,265万円、エコ協  
賛金などにより収入は2,653万円と  
なりました。一方でコープの森植樹  
祭や森とのふれあい活動が全道で執  
り行われ、森づくりワークショップ  
などの活動を旺盛に取り組み、助成  
金も増額して、支出は2,630万円と  
なりました。\*

2013年度収支一覧

	12年度実績	13年度決算	内容 (単位:千円)
レジ積立金	21,959	22,650	レジ袋辞退の積立金
協賛金	3,329	3,885	エコ協賛金、企画協賛金
収入計	25,288	26,535	
植樹森づくり活動	8,252	8,755	植樹祭、森づくり企画、サポーター活動
助成金支援	7,984	8,776	森づくり団体、ぎょれん助成
広報啓発費	1,391	944	基金レポート、モリイク、サポーター通信、助成ポスター
調査研究費	455	362	助成団体視察
基金運営費	7,024	7,463	業務委託費、会議費、通信交通費など
支出計	25,106	26,300	

2014年度  
コープ未来の森づくり基金  
助成団体一覧

2014年度の助成は以下の森づくり団体に決定  
しました。北海道の森づくりやその大切さを多  
くの人に伝えてください!

高額助成

- 特定非営利活動法人 ezorock (札幌市)
- 特定非営利活動法人 北の森と川・環境ネットワーク[GRNet] (七飯町)
- 認定特定非営利活動法人 ECOの声 (中川町)

小額助成

- 間伐ボランティア 札幌ウッドーズ (札幌市)
- 手稲さと川探検隊 (札幌市)
- 特定非営利活動法人 ナショナルトラスト・チコロナイ (平取町)
- オホーツク森林レスキュー (遠軽町)
- 日高の森を守り育てる会「麗の杜(ひのもり)」(新冠町)
- 札幌市立駒岡小学校 緑の少年団 (札幌市)
- 飛生(とびう)アートコミュニティ (白老町)
- 当別森林ボランティア「シラカンパ」(当別町)
- 縄文スクスク森づくりの会 (伊達市)
- 自然愛好グループ ヨシキリの会 (登別市)
- 特定非営利活動法人 大沼・駒ヶ岳ふるさとづくりセンター (七飯町)
- 特定非営利活動法人 NATURAS (函館市)
- 川は心のシンフォニーの会 (余市町)
- 札幌市立有明小学校 父母と先生の会 (札幌市)
- 特定非営利活動法人 木材・合板博物館 (東京都)
- 環境NPO 赤毛のアンクラブ (芦別市)
- 特定非営利活動法人 ましゅうの里 (弟子屈町)
- 特定非営利活動法人 つべつ自然の会 (津別町)
- 里見緑地を守る会「どんぐり」(北広島市)
- 緑の少年団 なかしべつ冒険クラブ (中標津町)

Special Present!!

今回のモリイクプレゼントはスペシャル企画!  
北海道の森づくり交流会で生まれた究極の癒しグッズができました!



テーマは「もらってうれしい木の製品」。  
第4回北海道の森づくり交流会に参加  
した皆さんが、ワークショップで考え  
た木の製品のアイデアはさまざまでした。  
快眠に誘う木の枕、樹種が違うから  
音も違うだるま落とし、北欧の木の文  
化をおしゃれに、木のカップのペンダ  
ント…。見ているだけで楽しくなって  
欲しくなるアイデアがたくさん生まれ  
たのですが、その中から審査員が悩ん

で悩んで選んだ大賞がこの「万能え  
くぼ」。木の手触りはそれだけで癒し  
を与えてくれるということに着目。  
そこに、手の中で触ってさらに癒さ  
れるフォルムを取り入れた究極の癒し  
グッズ。それが「万能えくぼ」。ポケ  
ットにしのばせてちょっとした時の  
リラックスに最高です。そんな商品  
をプレゼント用に、チエモク株式会  
社が特別に作ってくれました!

Present アンケート&プレゼント

「モリイクvol.8」いかがでしたでしょうか。今後の紙面づくりの  
ために、アンケートにご協力をお願いします。

- Q1 モリイクを読んだ感想をお聞かせ下さい。
- Q2 面白かった記事・つまらなかった記事は  
どれですか? 右から3つお選び下さい。
- Q3 森づくりの活動に参加したことがありますか?(はい/いいえ)
- Q4 コープ未来の森づくり基金の活動へのご意見があればお聞かせください。
- Q5 取り上げてほしい記事のテーマがありましたらお書き下さい。

巻頭コラム(P2,3)  
森づくりという作品づくり(P4~7)  
木づかい(P8)  
大きな木の小さな物語(P9)  
森のコワイ!あぶない?(P10,11)  
森林再生コラム(P12)



PRESENT!  
アンケートに回答いただいた  
方から抽選で5名様に、北海  
道森づくり交流会で生まれた  
アイデアグッズ「万能えくぼ」  
をプレゼントします! 木の  
ぬくもりに癒されてください。

応募方法

アンケートの回答を記入の上、住所・氏名・年齢・連絡先  
を明記の上、はがき、FAX、メールにてお送り下さい。  
プレゼントの当選は発送をもって替えさせていただきます。  
応募締切 10/31(金) 当日消印有効

コープさっぽろ基金事務局  
〒063-8501 札幌市西区発寒11条5丁目10番1号  
FAX: 011-671-5743  
メール: csap.k.asumori@todock.jp

